



# 介護福祉業界での キャリア形成の考え方について

～求職者と事業所の両方の観点から解説～



**転**職へのハードルが低いといわれている介護福祉業界。しかし、安易な転職は転職者側にも事業者側にも大きなダメージが生じると警鐘を鳴らすのは、介護福祉業界の転職・採用事情に精通する繁内優志氏。介護福祉業界で長期的に良質なキャリアを形成するにはどうすればよいかを考えます。



執筆 ▶ 繁内優志 ● 福祉業界の人事向けメディア「福祉人事.com」編集長

神戸大学を卒業後、医療機器メーカーを経て大手人材会社へ入社。大手人材会社で介護業界に特化した人材支援事業の立ち上げ業務に従事。全国の福祉事業者向けの採用コンサルティングや各種人材サービスの事業開発、全国の自治体・業界団体からの依頼を受けて福祉業界向け人材採用・定着セミナーの講師、業界向け情報発信サイトの編集人、厚生労働省補助事業の支援業務などを行う。現在は大手不動産会社で事業企画業務に従事しながら、介護福祉業界の採用ノウハウ本（「丁寧 わかりやすい 実践できる 介護福祉業界の採用ノウハウ」発行：日本橋出版）を業界向けに出版。

## 転職がしやすい介護福祉業界 ただし安易な転職は要注意

国民の4人に1人が高齢者となり、多様性が許容されることで1億総活躍時代といわれている現在の日本では介護福祉関連の事業所数は年々増加しています。いま社会福祉施設は全国に約8万カ所<sup>1)</sup>あり、この数はコンビニの数よりも多い数字となっています。

一方で働く介護人材の数は大きく増えていないため、2019年度に211万人いる介護人材は2025年度には約32万人不足するといわれています<sup>2)</sup>。

有効求人倍率も依然として高く、2020年度で施設の介護職員が3.90倍、ホームヘルパーが14.92倍となっています（図1）。

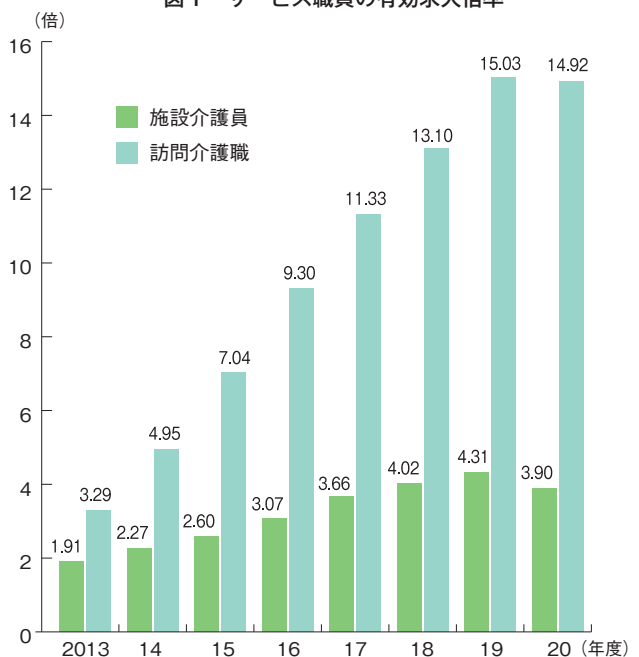
これは施設型の職員であれば、求職者1名に対して4カ所の事業所が、ホームヘルパーであれば、15カ所の事業所が採用を求めているという計算になります。介護福祉業界は事業者側より求職者の方が有利な売り手市場であるといえるでしょう。

こういった市況感のなかで数カ月単位での転職を何十回と繰り返している求職者の方が多くいますが、それでも次の転職先が見つかってしまうのがいまの介護福祉業界です。

ただ、いくら介護福祉業界が求職者にとって簡単に転職

できる市況感だからといって安易に転職をすることはお勧めしません。その理由は、転職回数の増加により再就職先が難しくなるためです。以下、そのリスクを状況別に2つご紹介いたします。

図1 サービス職員の有効求人倍率



厚生労働省「第93回社会保障審議会介護保険部会」（令和4年5月16日）より